

タナゴ調査を通して

弘前市立大成小学校
教諭 菅原 宏之

1 はじめに

本州最北端に位置する青森県には、西に世界自然遺産白神山地と霊峰岩木山が、南に十和田湖、東に八甲田山を拝し、豊かな自然環境に恵まれています。しかし、恵まれているがゆえにそれが当たり前となり、改めて誰かに指摘されなければその価値の高さに気づけないことが多いように思います。

児童の多くは郷土の優れた伝統や文化、自然等に囲まれて生活していながら、それらを守り伝えてきた人々の苦労や心情に触れる機会があまりありません。また、郷土の良さやすばらしさは日常の中に溶け込んでいるため、それに気づかないことが多いように思います。

そこで今回、郷土を愛する心を育みたいと考え、アースウォッチジャパンのタナゴ調査で得た知識や体験を道徳の指導の場で生かすことにしました。

2 指導の実際

- (1) 資料名 桜満開の弘前公園 <郷土愛、愛国心>
- (2) ねらい 郷土のもつ美しさをよみがえらせた先人の苦労や努力を知り、郷土を大切に思い、自ら進んで郷土に関わろうとする心を育てる。
- (3) 資料について 本資料は、整備が行き届かず桜の木々も荒れ放題であった弘前公園を、元通りの美しい姿に戻したいという強い願いから努力し続けた公園管理事務所長の話である。桜を守るために苦労をいとわずに努力をし続ける支えとなった主人公の気持ちに焦点を当てながら話し合いを展開し、終末で教師のタナゴ調査体験談について話す。
- (4) 授業展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	(1) 弘前公園について知っていることを話し合う。	・桜まつりのときの写真と映像を活用し、より身近な体験を語れるようにする。
展開	(2) 資料を読み、主人公の気持ちについて話し合う。 ① どんな気持ちで公園整備を進めていったのだろう。 ② 「公園の工藤さん」と呼ばれるたびに、	・資料の中に専門用語が含まれるため、解説を加えながら読み聞かせる。 ・主人公の公園の桜を守りたいという思いと、うまくいかないことへの焦りに気づかせていく。 ・人々に期待されるたびに不安になっ

	<p>主人公はどんなことを考えていただろう。</p> <p>③よみがえっていく公園の桜を見ながら、主人公はどう思っただろう。</p> <p>(3)みんなで守り続けているものについて話し合う。</p>	<p>ていく主人公の心の揺れに気づかせたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・悲願を達成した主人公の気持ちを話し合わせ、ここまで努力を続けた主人公の原動力について考えさせる。 ・ほかに弘前市で昔から守り続けているものについて考えさせる。
終末	(4)教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・タナゴ調査をしている研究者の苦労や願いについて話す。

3 おわりに

(1) 児童の感想

- ① 人の手でこわされた環境をできるだけもとにもどそうと努力している人たちがいることを知り、ぼくも環境を考えて生活をしていきたいと思いました。【6先生男子】
- ② 桜を守ろうとした工藤さんもタナゴや外来種の数を調べている研究者も自然を大切にしたいという気持ちや、人々がよりよい環境で生活してほしいという願いが強いのかなと思った。わたしもだれかの役に立ちたいと思いました。 【6年生女子】

(2) 教師の感想

タナゴの生態調査を通して、自然環境の変化を研究している研究者たちと触れ合うことで、これまで気にもとめなかった川の護岸の様子やため池の様子に関心を持つようになりました。

また、よりよい環境は、このような研究者たちの手で回復されていたことを児童に伝えられたのではないかと思います。

